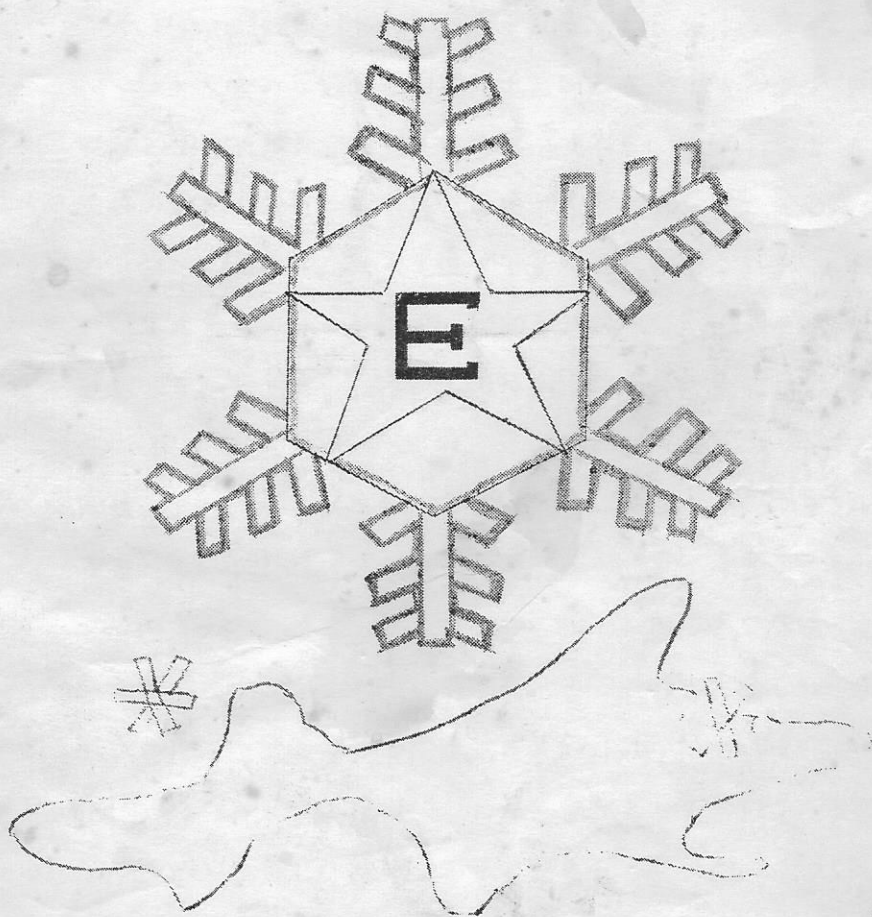


LEONTODO

N-ro 32



1965 April 7

HOKKAIDO ESPERANTO LIGO

Hošida

La 2a Disciplinado de Esp-istoj
en Hokkajdo en 1965
Bonvenigante S-ro G.G. Pompilio el UEA

とき 3月6~7日

ところ サツポロ (道共済会館、宮内エス、札幌)

5日.

世界エスペラント協会 (UEA, オランダにある) 大会常任書記 S-ro G.G. Pompilio (italo) は本年夏の東京における第50回世界エスペラント大会の宣伝をかねて本道の同志を激励するため5日朝サツポロ駅におりたつた。出迎えた高橋達治 HEL 事務局長をはじめ札幌エス会の教府の会員とともにその足で道庁の知事室で記者会見。6日付の道新に pompilio 氏の来道が写真入りで報道された。そして5日の晩はオタルの Kunsidojo かめや旅館へ。かめやでは18名出席同夜 二の旅館で宿泊。(6日付朝日新聞全道版報道)

6日 (土)

開会は15時からの予定が、おくれしてくるひが多いうえに司会者に予定していた高橋達治氏の突然の欠席の通知で予定がくるい15時45分から始まった。そのためにプロパーの一部変更を余儀なくされた。

北海道エス連盟 (HEL) 副会長でかつ札幌エス会 (SES) 会長の吉原氏の開会挨拶ののち質問形式による interkonatiqo が1時間あった。

17時 S-ro Pompilio とその通訳として JEI から派遣された S-ro Ŝooji の登場。拍手で迎える。HEL, SES および出席者一同にかわつて吉原氏が歓迎のあいさつ。S-ro Pompilio からはそれに対する感謝のことばがあり、また「用語は Esp のみ…」との会場のはり紙をみつけて「エスペラント運動にとって大切なのは実践である、日本語を使わないとの方針をきめた勇氣は高くかわれてよい」と言ほめことば。約15分間のかれの話ののち自由な質問が

なされた。

記念撮影後、全員夕食を別室でとり、そののちは S-ro Pompilio から世界大会に関係のない話を 30分ほどしてもらった。前回の disciplinado と同様に今回も一切日本語を使わない予定であったが通訳の S-ro S88ji がみごと⁵にその任務をこなすのでかれには P の話ばかりでなくその他の人々の話まで初歩者のために通訳してもらうことになり、かれにのみ日本語の使用が許された。

会典の時間には SES 会員 S-ro 川口の独唱があり、また SES 約 10名によつてイス語のヤーラン節(永田訳)が踊られた(f-ino Mine 踊り指導)。そのあとで S-ro P から生れ故郷イタリヤの名曲サンタルチヤが原語とイス語で披露された。また SES 会員の ge-komencantoj (1964 8月の講習修了者)の S-ro 藤井, f-ino 高坂 岸口 S-ino 羽田によつて「夜」の練習になるという自作自演(?)のかとくち話が披露された。

20時 La Taq:qo をうたつて共済会館での会合を解散。

宮ヶ丘ユースホステルの合宿では S-ro 木村を中心に1時間の勉強会がもたれた。宿舎に指定したこのユースホステルの使用者のほとんどから居心地について不平がでたので、今後はここを敬遠することにする。泊られた方々には当方の宿舎選定の不行届によりご迷惑をかけたことをこゝで深くお詫ひします。

7日(日)

S-ro P の才50回世界エスペラント大会に関する講演を聞くことにこの日の主たる目的がすかされた。約1時間半にわたるかれの講演により、多くの出席者がイス語で話す勇気を持ち、エスペラントの意義を再認識したという点でこの日の成果は大きい。(講演内容別掲) 又通訳の S-ro Sooji (早大4年生)からはエスペラントで過去2回の

世界エスペラント大会に参加したときの経験を3つほど小話ふうにおもしろおかしく話をしてくれたので一同笑いの連続というひとときもあつた。

この日の模様は NHKテレビが午前10時過ぎ取材、同日12時10分
からテレビニュースで放送されるということで Disciplinado が予
定どおり12時で終わったあとは出席者一同 S-ro P と共済会館の
salono でテレビをみた。「エスペラント……」のtitoloを
画面にみるや、みな思わず歓声をあげた。12時半、外で記念撮影し
て散会。

出席者 45名 (6日 39名 7日 42名) 今回拜食も忘れて準
備に当って下さった方々に感謝します。次回の Disciplinado には
より多くの方々が出席されるよう希望します。

(HEL. サロP 委員 見玉、永田)

★50回 世界エスペラント大会について —— S-ro G.G. Pompilio の講演要旨 ——

1. 各種の国際会議と世界エス大会との相違点

- | 各種 国際会議 | 世界エス大会 |
|---|---|
| イ. それぞれの国を代表した者の
集りて国際的 (inter-nacia) | イ. 人類の一員として集まり、
世界的 (universal) |
| ロ. どの国際会議も一つの kategorio
に属する temoj を討議 | ロ. 幾干もの職業、幾干の
関心をもちた幾干の人口が集
まるのだから programo も多彩。
Esp 以外のことを Esp で討議する
分科会は各分野にわたる |

ハ.赤字になる。政府とか大きな
機関から莫大な援助をうけてい
るのに通訳や通訳装置(inter-
preta aparato)に高い経費
がかかる

ニ.公用語が少くとも3ヶ国語
ある。口連のUNESKOでは公式
8つ、非公式7つの計15ヶ国
語が使用され、その種類は極
限に達している

ホ.会議が一旦休憩に入ると通
訳装置は働かず通訳は足りな
い上にたいていの場合私用に使
えないので、いきおい「ことば」の
通じる者同志、すなわちそれ
ぞれお国別にかたまつてしお、

ハ.公用語を話せないあるいは
少ししか話せない人は、いいた
いことをうまく表現できず不
利である。反対に公用語に採
用された国語を話す人々は優越
感すら感じ不幸にして公用
語にならなかつたために余儀
なく他国語をまわらぬ舌で
チチチとしゃべる小国の人たちを
一段低く見おろす傾向がある。

ハ.赤字になることがない。常用の
かかる通訳とか通訳装置がいらな
いからである

ニ.公用語はEsp 一つである。

ホ.休憩時間でもことばに不自由
がないので salono や廊下や屋
外の至るところで各地から集まつ
者の親善風景がくりへげられる。

ハ.いかなる国の人々にも平等なE
speranto が唯一の公用語で
ある結果 人々は人類としての共
同意識をもつ。

2. 第50回世界エス大会

7月31日 — 8月6日 (東京) 世界エス大会

8月8日 — 8月15日 (大津市) 世界エス青年大会

親睦会 — bela salono で

分科会 — どこの顔を出してもよい。Esp 以外のことを Esp のみで討議。

総会 — Esp で Esperanto 及び Esp-Movado について討議

夏期大学 — 各国からの教授、専門家がしろうとにもわかるように話す。夏期大学の目的は知識を授けろうということよりも学術的なことで Esp で充分表現できることを証明することにある。

演劇 — サメンホフの生地ポーランドの政府が一切の費用をもちつてプロの劇団を東京に派遣してくる。アメリカの現代作家のものを上演する予定である。第48回世界大会(於ブルガリヤ)ではほかの方法では他口に知られそうもないユーゴのマトウツヴイッチ(ユーゴ)という劇作家を45ヶ国からの3500人以上もの参加者に紹介した。劇上演の目的は微妙な心の nuance をよく表現できることを証明することにある。

註. 今夏東京での世界大会には去年12月31日現在で参加申込は外国から500人、日本から700人に達した。エスペラントをはじめたばかりの方でも 東洋で最初 しかも日本では最後ともおられる来る世界大会へは万障を繰り合せて参加されることを希望します。申込方法や申込書については 直接日本エスペラント学会(東京都文京区文京1-13)へ返信用切手10円と同封のうえ、お向い合せ下さい。申込みのメッキリ日は 6月30日 です。

現在の Homaranismo

星田 彦 (甚小牧)

S-ro Pompilio 歓迎会で homaranismo の現状をきかれ
方がありましたが、充分な答ではなかつたようです。現在 Realigita
homaranismo — Unitarismo と称する団体が 北アメリカ
にあります。これは '63 の UEA-Jarlibro によれば

--- estas religio, sed religio en pli larĝa senco
ol difinita en la Plena Vortaro. Ne tio,
kion ni kredas, unuigas nin, sed kiel ni
serĉas la veron. とあります。Unitarismo
は英語で Larger Fellowship Unitarian Universalist
といひ 北米に千の教会、20万の信者 (unitaranoj) をもつて
いるそうです。UEA の Fak-deligito には Kanado の s-ro
R. Eichholz が 出ています。知りたいたとかがあれば 御一報下
さい。

☆ 道内 Samideanoj 訪ねる記 ☆

札幌 木村 喜王治

私は昨年の9月から1月まで5ヶ月間に仕事の関係で道内を一巡す
る機会をもつたので 行く先々で "Esp-Vespero" を持つことに努めた。
というのは私も今55才、何とか今のうちにたくさんの後続者を養成し
なくては、柄にもない望みを持つたからです。紋別へ行く途中遠軽で
Vagon-Sanĝo するので、堀江精一さんに駅まで出迎えて頂きました。
実は堀江さんには一度もお目にかかつたことはないし、さぞかし
junulo であろうと想像していたところ Blanka-haro の inst-
ruisto であつたのには驚いたの、喜んだの。 pli malnova

parolado を聴いて Ĝis la kongreso しました。

こんな調子で 北見、釧路、根室、稚内、旭川、帯広、夕張、岩見沢、江差 の各地で エスペラント の夕を持つことができ、また苫小牧、函館、室蘭では常連に会い楽しく trabilado に時を過しました。

帯広の真方先生は音更保健所の所長さんで malsanulo の tag-libro を Esp で書いておられる方でした。また帯広畜大生の f-ino 斎藤、岩見沢の中学生の田中さん(でしたか)、ほか相当に parolado できる若い方が各地におりますので楽しみです。北見と帯広の皆さんへ alilandanoj の paroladoj の son-bendo を送っておきましたので、こんなに外人の話も解り易いかと、自信をつけたことと思います。函館の小田島さんには昭和17年の才1回北海道大会(空知郡 山部で開催)の写真でお目にかかって以来のことですし、疎の再会という思いでした。函館ではもうエス会が再設立された頃と思います。

旭川ほか各地の皆さんも会を設立してください。旗印を掲げてください。旗印をあげることは自らを励ますことです。まず自分の kapablo を引上げなくては他の才にすめられません。たぐいの少い聖なる仕事をすることに誇りを感じましょう。学会(日本エスペラント学会)会員だけでも現在道内に100名以上おられますし、今年の北海道大会はかつてない盛大な集いになることと今から楽しみです。何だか血の高鳴りを感じます。

Agordu la brustojn, ho, nia fratara' と。

北海道大会で会いましょう！

北海道大会で会いましょう！！



Leteroj el izolitaj gesamideanoj

菅小牧 星田 淳

昨年大会の新聞報道以来 各地に学習希望者があえだが 殆どが
izolita stato で恵まれない条件の下に 独習をフブけている。
kuraĝon kaj helpon, gesamideanoj!
以下 leteroj を少し紹介する。

私は、
----- 独習といつても全然なんです。38年4月からといつても
簡単な会話をおぼえた程度です。でも混乱まわまる世界の状況と思え
ば エス語こそ神の言葉だと思います。そして私達青年がニぞつて学
ぶべき言葉ではないでしょうか。一つの神、一つの言葉、一つの世
界を実現しなければ 平和な世界は生れないと思います。

(上川郡下川町ニの橋ニ十線、木村田于エ子)

私が語学には全くとつてよい位不得意なのになぜ関心があるか
、オーに戦争の大部分は 侵略的な実を除けば お互の国の理解が不
完全充分だったからであり、それは風俗習慣の違うのは勿論ですが
それより言葉の通じないのが大きな原因だと思つてなのです。私自
身有意義な人生をしたいと思ひます。----- 国内のエスペランチス
トや全世界の人たちと暖い友情を交わしながら お互をよく知り
本当に日本人として恥づかしくない視野の広い人間になりたいと思
つております。

(千代市 緑町1丁目 北村方、開発文夫)

----- 主人はロシア語を学んでおります(独学)ので 私も主人に
負けぬよう頑張ろうと思ひ斗志を燃しているのですが----- 平和を語

リ合える仲間を一人でも多く小やして行こうと考えています……
「世界平和」という大きな課題に一步一步近づくこと、未熟な心にむち
打って…… 万年初級で終わらぬよう頑張りたいなあー と思います。

(阿寒郡 鶴居村 支雪裡 佐藤 ツル)

Fest-parolado de Dro Prof. Ivo Lapenna

苫小牧 星田 淳

先日 小樽の S-ro Pompilio 歓迎会、札幌での Disciplinado
で皆さんのお耳に入れた Dro Ivo Lapenna の 49 回大会 (昨年ハグ
) での演説の内聞かせどころを紹介します。彼は現 UEA 会長、現
Esp-ujō 最高の Oratoro といわれ "Retoriko" の著者
でもあります。

この演説はドーナツ盤位のプラスチックシート 2 枚、4 面ですが、
前半はおさまりのあいさつ 開催地 Nederlando への Laŭdado
が多く、esp-istoj への部分は後半です。UEA の "esperanto"
sept 1964 にこの演説は 2 頁にわたってのつていますが、これ
は全く koncizigita teksto で 構文も用語も ホンモノ とかなり
ちがっています。全ロオミットされた所もかなりあります。

初めてきくと かなり早くてききとりにくい所もありますが 発音
は実にはつきりしているのど 何度かきけば、やがて全部聞きとれるよ
うになるし そうなれば 今度の LK の演説をきいても そう若勞しな
いでしょう。しかしさちかの Lapenna ^{さん} でも、生の演説ですから、
所々つまりがかつたり、言いまちがえたりしい所もあります。次に引用
した部分では カッコ内に入れたのが (12 頁へ 続く)

Kiam la sekretario de Unuiĝintaj Nacioj turnis
sin al neregistraj organizaĵoj en konsultaj
rilatoj kun Unuiĝintaj Nacioj kaj kun Unesko, (int-
-er aliaj ankaŭ unue l-?) por partopreni en tiu ĉi
agado, kompreneble Universala Esperanto Asocio ak-
ceptis la kunlaboron; ĉar ni esperantistoj opinias
, kaj ni esperas ke mi esprimas la opinion de ni
ĉiuj ĉi tie kiam mi tion diras, ni esperantistoj
opinionas ke necesas doni dubtenon al ĉiuj honesta
- j lojalaj klopodoj de Unuiĝintaj Nacioj,
kiuj celas antaŭenigi internacian komprenigon
kaj sekve ankaŭ mondan pacon, ĉar ni esperantistoj
ja estas por la monda paco, kaj ni estas ne nur
hodiaŭ, sed estis ankaŭ hieraŭ kiam estis fortaj
internaciaj tensioj, kaj ni estis ne nur hieraŭ
, sed ankaŭ antaŭhierau, eĉ de la momento, kiam
tiu genia junulo el Bialistok ekhavis la ideon
doni al la homaro komunan lingvon; ĉar tra ĉiuj
niaj realigoj ĝis la hodiaŭa tago la ideo de
komuna supernacia neŭtrala lingvo estis ligita
al la penso pri interkompreniĝo ne nur buŝa sed
ankaŭ kora, al la ideo de toleremo kaj komprenema
rilatado al alies pensoj, ideoj, ideologioj kaj
religiaj sentoj, al interkompreniĝo inter la
rasoj kaj ⁿecioj, sekve al la monda paco. (aplaŭdo)

(I I)

Necesas kolekti multajn subskribojn je tiu propono. Necesas mobilizi ĉiujn niajn organizaĵojn kaj ĉiujn unuopulojn, ĉar kvankam dum tiu ĉi jaro de internacia kunlaborado ni faros nian eblon por ĉerpi al la klopodoj de Unuigintaj Nacioj sur tiu kampo, tamen ni ne forgesas, ke ne estas ^{ebla} ~~el~~ la pli intensa kaj pli vasta internacia kunlaborado, sen akcepto de komuna instrumento de kunlaborado, per kiu povas interkomprenigi ne nur la intelektaj elitoj, kiuj havis tempon por ellerni multajn fremdajn lingvojn, kaj eĉ tiu lerno ne sufiĉas al ili por interkomprenigi ĉiam, sed ke necesas kunlaborado de la vastaj popoltavoloj, kiuj havas nek tempon nek energion en la hodiaŭa moderna tempo por lerni amasen da lingvoj, sed necesas havi unusolan lingvon por internacia komprenigo, kaj tio estas nia internacia lingvo Esperanto, internacia laŭ sia konsisto, laŭ siaj celoj, laŭ sia strukturo kaj laŭ ĉio, (aplaŭdo)

(III)

Tiamaniere, al kiu ajn aspekto vi rigardas,

(11)

もとのコトバです。(訂正は黒印)

I

ここは今年の「世界協力年」のため国連から協力要請があった時 協力することとした UEA の考えをのべたところです。

Esp 文 (I) (10頁) をよんで下さい。

この長いのが一つの文らしいので大変ですが 大意を示しておきます。

〔大意〕 国連が諮問の諸団体にこの運動(国際協力年のための運動)の協力をよびかけた時 UEA は勿論協力することとした。そのわけは、国際理解をおし進め 従つて世界平和をめざす国連の努力は支持すべきだと平和のために働く我々 esp-isto は考えるからである。我々 esp-istoj は現在においても過去においても、Bialistok の天才青年(勿論 Zamenhof)の頭に国際語の考えが宿つたその時から、平和のために働いてきた。そして又現在迄の中立国際語の事業は常に コトバ だけでなく 心と心との理解、他人の考え、理想理念、宗教への寛容の精神、神、民族 国家間の理解、従つて世界の平和……に結びついてきたからである。

(II

ここは^今全世界で行われている国連への署名運動について訴へ、esp-isto としての考え方をのべています。

ESP 文 (II) (11頁) をよんで下さい。

〔大意〕 多くの署名を集めるため 我々の組織、個人の全力を結集しよう。この国際協力年に当り 国連への協力に全力をつくすというだけでなく 次のことを常に頭においているからである。即ち現在以上の高度広汎な国際協力は、多くの外口語を学ぶ暇のある一部のエリート だけではなく そんな暇のない広汎な大衆の参加なくしては、従つてその参加を可能にする共通の国際語の採用なくしては不可能なこと。そしてそれは その構成その他あらゆる理由により国際的な我々の 에스ペラント であるということである。

III

こゝは最近の Esp-Movado の前進を数字をあげて示したあと、この進歩を esp-istaro の Unueco がなければ 全事業に重大な危険を及ぼすとザメンホフの最後のいましめ (1912 年 Kraków の 23-a LK) を引用しこの精神を守つての前進をよびかけています。

11頁

「Esp 文 (III) をよんで下さい。(14, 15頁)」

(大要) こうして 内外の色々な問題はあつたが、我々は前進して来た。□隣接力年にあつての我々の任務をなすとげること、我々が統一を ~~き~~ 守つてさえいれば — 組織的にも精神的にも統一していれば、可能である。この際 1912 年ザメンホフが Esp 界の公的地位から退くことをきめたときの言葉を思い起していただくのが一番よいと思う。

「Esp 界のすべての公的地位を退くに当り最後にお願ひしたい。常に完全な統一、秩序と調和をもつて進むようにと。統一さえあれば 全世界が 敵に廻らうともいつかは勝利をうるだろう。内部に不和があれば 敵が皆で力をあわせて攻めてくるより早く我々の事業はつぶれてしまうだろう。我々の間によくないと思へる事があつたら 合意の決定によりそれをおたやかに除去しよう。決して我々の間に憎しみや不和の種をまいてはならない。それは我々の敵を喜ばすだけだから。我々の運動の初期、「希望、信念、忍耐」が我々の標語であつた。その時は同志がお互に尊敬し助け合うのは当然と考へられていたからそれでよかつたが、(一とザメンホフはいつてゐるのだから) この当然のことが、残念ながら最近よく忘れられるようになった。それで我々は新しい標語を旗にかきこみ聖なる命令としてこれを尊敬しよう。—— その言葉は『調和』である」

(以下 16 頁につづく)

vi vidas objektivan progreson malgraŭ la grandaj malfacilaĵoj eksteraj kaj malgraŭ multaj obstakloj interaj, kiujn ni frontis kaj plue frontas en nia laboro. Mi do opinias, ke ni estas kapablaj pbenumi la grandan taskon kiu staras antaŭ ni en la jaro de internacia kunlaborado sub unu kondiĉo, ke ni estu unuecaj, unuecaj ne nur organize, sed ankaŭ en niaj koroj kaj spirite. Kaj tiurilate ni opinias ke ni povas fari nenion pli bonan en tiu ĉi momento ol memori vin pri la vortoj, kiujn eldiris D-ro Zamenhof kiam --lasta pro kelkaj eventoj en la tiama esperanto-movado, li decidigis retifiĝi el ĉiu oficiala funkcio el la esperanto-movado kaj en sia fama parolado de la jaro 1912, anoncis sian eksigon. Li diris ;

"Antaŭ ol mi formetas de mi ĉian oficialan rolon en nia afero, mi ankoraŭ la lastan fojon admonas vin ; laboru ĉiam en plena unueco, en ordo kaj konkordo. Per unueco ni pli aŭ malpli frue certe venkos, eĉ se la tuta mondo batalus kontraŭ ni ; per interna malpaco ni ruinigus ni nian aferon pli rapide, ol tion povus fari ĉiuj niaj malamikoj kune. Se en nia afero speros io, kio ŝajnas al ni malbona, ni povos trankvile ĝin forigi per komune konsentita decido ;

sed ni neniam semu en nia tendaro reciprokan malamon kaj malpacon, kiu nur ĝojigas kaj triumfigas niajn malamikojn. En la unuaj jaroj de nia laborado sur nia standardo estis skribitaj la vortoj 'espero, obstino paciento' tio tute sufiĉis, ĉar ke ni, samideanoj, devas reciproke nin estimi kaj helpi, tio por ĉiu estis komprenebla per si mem. En la lastaj jaroj -diris Zamenhof- bedaŭrinde ofte forĝesis tiu devon; tial nun, transirante en la ^{duan kvaronjaron} ~~duan kvaron~~ periodon de nia historio, ^{ni skribu sur nia standardo novan vorton, kaj} en la ĉi tiun vorton ni ĉiam respektu kiel sanktan ordonon, tiu vorto estas 'konkordo'.

Tio estas la vortoj de D-ro Zamenhof. Tiuj profetaj pensoj de Zamenhof regu la laboron de tiu ĉi kongreso. Ili estu antaŭ niaj okuloj kiam ni ekagos kaj laboros en la Jaro de Internacia Kunlaborado. Ili estu la bazo de nia agado en la estonteco.

Se ni observos tiun saĝan kaj prudentan konsilon, ni certe venkos.

Se ni observos ĝin, ni riskas ne nur detrui ĉion kio ^{mal} miloj da sindojnaj personoj kreis dum pli ol 70-jars ekzistado de Esperanto, sed ankaŭ kompromiti por ĉiam la ideon de internacia lingvo, ĉar se ni kompromitas hodiaŭ la ideon de la internacia lingvo neniu plu troviĝos, kiu povos restarigi ĝian reputacion. (aplaŭdo)

Ni estas sufiĉe fortaj, geamikoj, por iri antaŭen. Ni nur bezonas saĝon kaj prudenton por esti unuecaj, kun tiu saĝo kaj prudento ni alfrontu la laborojn de tiu ĉi kongreso, ni alfrontu la Jaron de Internacia Kunlaborado, por ke la Jaro de Internacia kunlaborado farigu samtempe ankaŭ la jaro de la Internacia Lingvo Esperanto, en la intereso de internacia kunlaborado, en la intereso de amikaj rilatoj inter la popoloj, rasoj kaj nacioj, en la intereso de amika kunlaborado inter ĉiuj unuopaj homoj, en la intereso de ni ĉiuj. (aplaŭdo)

・ このザメンホフの思想こそ 我々の大会を貫き 常に我々が旨とすべきものだ。それは我々の未来の活動の基礎である。我々がこれを守る限り心ならずも勝利するだろう。もし守らなければ 70年のESP運動の成果のみならず 国際語の思想そのものを危うくしてしまうだろう。

我々は前進の力を充分もつている。このザメンホフの教を旨として 国際協力の年になるぞう、国際協力の年が 国際語エスペラントの年になるように、それは国際協力のため 諸国民の友好、すべての個人個人の協力のためであり、我々すべてのためなのだ。

ポンピリオ氏のよこ顔

面長の橋幸夫刈り。イタリヤ生れ。15、6オのとき Esp を学びはじめ 22オでオランダにある世界エスペラント協会本部に勤務。以来 28オの今日まで 6年間オランダで Esp のために働き 現在大会常任書記。毎年世界大会開催地におもむいてその準備に当たっている。長いアゴに秘めたる国境のない人類共同社会への情熱はもえてつぎることを知らない

(札幌-ano)

新名義発行について

HEL事務局

一昨年苫小牧の f-ino 北畠らの努力で名義が発行されましたが各地 GRUPO の membroj もかなりかわつていようであり、又一面では Izolita j membroj の数もふえていようです。

S-roj 木村、星田の調査で JEI の membroj が意外に多く私達もこれら gesamideanoj が一緒に HEL に集まってもらいたいと思います。次に若干の名義を記します。

函館 GRUPO 予想の人。

吉田栄 函館市船見町43

中尾光成 " 大森町28万和荘

市川忠 田家町51

築輝子 蓬萊町8

真鍋寛定 港町253北巻寮

国兼信一 柏木町103

小田島栄 上磯町七重浜391

阿部誠 " 茂田地

佐藤元 江差町江差高校内

石黒順子

函館市若松町88

川本昭彦

" 田家町38

山本浩司

" 五稜郭町49
山口

金本英子

上磯郡木古内町本町

北見 GRUPO 予想

山下宏美 北見市三楽町1の2

津村初雄 " 公園町

神野信逸 " 北見専門店会事人前

竹長徹 " "

釧路、帯広 GRUPO 予想

(釧路市北大通 1の2 太平洋ビル事人前
竹西第二)

沼田芳藏 釧路市新学町11-11

高尾清 " 私書函39号医務室

伊藤 三枝子 帯広市 西7南25
 橋井 稚子 " 西6南4
 有藤 留美子 " 西5南15-8 (高大学生)
 池田 章夫 " 西10南19 山田英香方(")
 佐藤 ツル 阿寒郡鶴居村支雪裡

岩見沢 GRUPO 予想

長谷川 竜雄 岩見沢市春日町 3-1 学大往先
 浜田 国貞 " 緑ヶ丘学大希望寮9室
 田中 修 " 上懐向町 12号
 鷹取 寛資 " 北出町 1-1
 三浦 清 " 春日町 1 あやめ荘
 竹内 浩讚 " 14条西4
 新田 寿男 由仁町 三川
 藤田 一郎 栗山町 一区
 太田 俊彦 栗山町 5区454 太田金作方

旭川 GRUPO 予想

大沢 浄一 旭川市春光町 1区5条
 竹吉正広 " 9条9丁目 右1号
 水島辰重 " 神居町 神居古澤 水島小三方
 池田迪子 " 旭町 5丁目

千才 GRUPO 予想

中里 和夫 千才市春日町 1-1
 南条 文夫 千才市緑町 一丁目 北舟方

札幌参加予想

飛塚 基 札幌市 南8西3 飛塚ハマ方
 越智 世津子 " 北8西24 横田正巳方
 湯浅 幸雄 " 中ノ島2条1丁目 才3泊水寮

高瀬

正栄

東京育

世田谷区

若林町

25

marks
65

小樽参加予想

板垣成子 余市町大川町 12-21
 菅野忠一郎 " 沢町 1 小川有司方
 日詰京子 小樽市 天神町 83
 松浦光子 " 真栄町 2
 渡辺陽子 " 若竹町 19
 浅野緑 " 富岡町 1の3
 今江弘子 " 稲木町 西 5の2
 後藤洋子 " 砂留町 82
 塩田康子 " 花口町 東 4の21
 佐々木郁子 " 奥沢町 4の42
 安部俊光 " 才1管区海上保安本部

(道外)

植
天
口
勝

岡
谷
明
男

干
葉
果
木
更
洋
局
私
書
箱
六
号

愛
知
果
小
牧
市
南
外
山
空
自
王
術
校
才
教
部
一
科

道北 izolitaj

有藤 圭司 厚田町 別狩 8
 堀川 春雄 天塩郡 豊富村 日菅天塩硫業所 北心寮
 奥泉 高一 斜里郡 斜里町 又光町 6
 堀江 精一 遠軽町 大通 北一丁目
 貞方 善三 河東郡 哲更町 8丁目
 杉本 正徳 芦別市 本町 270
 吉田 邦彦 歌志内市 本町 167
 吉田 義美 美唄市 東1南1
 伊東 英幸 " 我路町 3条
 錦田 むつ子 名寄郡 市東 4条北1丁目
 榊田 テエ子 上川郡 下川町 2の橋
 近藤 晴直 和寒町 西和7
 三田 智久 士別市 西 1-10
 桜井 七郎 稚内市 恵比須通 1-301

水天眞一郎
 杉本 正徳
 中西健次郎
 小島久生
 田本義雄
 長嶋紀孝
 八木隆二
 道南 izolita

赤平市 茂尻新町 5-6
 芦別市 本町 270
 " 東1 南1
 夕張市常盤 12
 滝川市 教育委員会
 滝川市 蓬萊町 2-32
 江別町 緑町 康3
 { 山野喜美子
 石屋町字豊似和進 }

町河咲子 瀬棚郡今金町 神丘
 金本英子 渡島管内上磯郡 本古内町 本所
 村中年弘 日高国 歌別村
 ○ 山田俊男 日高国 早取町 振内 204
 山口欽一 滝ノ上町 旭町
 ○ 細井末文 八雲町末広町 143
 上村幹浄 南茅部町 ハマナス野 南茅部高校
 今村 昭一 登別温泉町 厚生年金 登別外科病院 411号室

増田守 渡島管内森町
 (66-9-16 森町 浅利 勢治)
 (近利 佐々木)

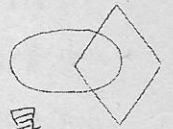
室蘭地方 エスペランティスト 名録

増田 貢 幌別郡登別町字栗馬 (室蘭工大)
 須藤昭三 室蘭市日の出町 2丁目 356 国鉄宿舎 (口鉄東室蘭駅)
 村本昭徳 " 高砂町 223 (富士製鉄)
 山田ツヤ " 母恋南町 32 (函館製網)
 酒井幸枝 本輪西町 286 (室蘭陸運事務所)
 菅原欽雄 みやぎ町 2丁目 16-34 (東中学校)
 佐口 実 本輪西町 富士鉄社 251-11 (富士製鉄)
 小林陽子 知利別町 269 (雪印乳業)
 川崎英三 母恋南町 11 (母恋郵便局)
 西 勝義 宮の森町 4丁目 22の1 (口鉄東室蘭駅)
 外川 進 中島町 2丁目 30-6 (")

末永 顕二	鞆西町元町アパート141～は	(富士製鉄)
高橋 秀一	室蘭市小橋内町28	(口鉄室蘭駅)
灘本 博子	趣前水町日鋼社支三午5号	(室蘭産鋼協会)
奥山 忠雄	東町日鋼社支三午見44号	(日本製鋼所)
平田 岩雄	東町日鋼社支東雲298号	(")
田中 月代	幌別邸登別町字鶯別 134-5	(月成建設)

ウ夫人との旅日記 から

(小樽 早川 昇)



ウ夫人の早くからの御依頼で 私のような会話下手な者ではと思つたが '62年9月1日から24日までの間、私は ウ夫人の山部行、それに続く層雲峡、阿寒、襟裳岬三国立公園への御旅行に Kondukanto として随行した。ここに其の行程と旅情を 軽く skizi させていただく。

私達が山部へ向け小樽を立つたのは 18日の朝 10時50分だった。山部駅に着いたのは、その日の午後4時5分。そこには 大本北海本苑の事務長、今野栄志氏を初めとするお暖かいお貌が四つ五つ見えて 私達は直ぐと 程近い同苑の 快い静けさの領して和室へ みちびかれた。

ここでの その夜は楽しかった。私達への歓迎会をなさつて下さるとの事で 同苑関係のお方では今野氏の外、宣伝部長の三殿崎、柴田の両氏や、大本青年会長の横山氏、同会員の中間氏、また、同苑の佳餐の調理者として特に感謝せねばならない山部青年会の小林嬢等がお集り下さり、また外部からは、山部村村長、日野政史氏や、村議、社会教育委員で諸外語に御堪能な赤広義武氏等がお加わり下さった。

ウ夫人は一同に エス語の有用性が如何に universal であるかと
いうこと、英国現代の靈媒術に関して なかなか面白い説明や見解を
述べられたので、われ人共に、眼を輝かした。この会は事実上 その後
向もなく同地に誕生したエスペラント研究会の 創立準備会にも成つた
らしく、私は想っている。

山部のお万様方の御厚情の程を憶う時、私一個としても深く御礼申し
上げねばならないが、何とぞして其のエス語への御関心が一層深まって
行くよう 祈り上げずには居られない。

私達は 翌朝は 旭川市の旧近文アイヌ部落を訪ねようと 10時42
分発の列車に投じた。車中 私の言葉を替わした旭川市農林販売課長、
赤坂重雄氏の御好意で 私達の同所訪問には市役所観光課の御配慮を仰
ぐ方が好都合だと解り 私達は同市に着くと直ぐ同課を訪ねて御諒解を
得、同課長と同乗で 部落へ向つた。

コタン(部落)では 酋長 川村コヌサ、アイヌ翁も 同夫人も 旧知
の私がこんな珍客を観光課長と案内して来てくれたというので 大層を
喜び、ウ夫人がその 店で御記念にアイヌ彫刻数卓をお買いに成ると 宝物
館へ御案内して、その後 同館前の広場で自身もその繁つかに参加して
アイヌ芸術の数々を見せてくれた。老女の吹き奏でるムツクリ(口琵琶)
の響きや 悲恋のマイシマナシの呪のしらべは 七人の乙女達による
「鶴の舞」の勤美に続いて 美しかった。

旭川駅から汽車 で上川駅に出た私達は その日の日没に バスで層雲
峡についた。層雲閣に投じて、明ければ十九日、私達は朝バスで峡谷の
奥深く 大函の勝を探つた。その辺からだつたが 私達は近くの席の
稍年若い御夫婦と 微笑を交わす間柄になつていた。聴けばこのお
二人は その先の温根湯温泉で「初音」と言う飲食店を經營している
お万様方で 私達は不思議な御縁から 乗換えに下車したその地で
ウ夫人お好みの冷やしそうめんやビールの御懇応を受け、またお店近く
に飼われている ursido などを見せて頂いた。御夫婦で私達をお

写し下すた色彩写真は 帰来後頂戴して好い記念だと思つている。

私達はバスで北見に着くと、夕方近かつたが、この地で春職に有らぬ S-ro Seiti Itô をお訪ねしようか、と話し合つた。でも、それには何人としても 時間が足りなかつた。残念ながら 同志へ詫言ひて汽車で美幌に出、駅近い旅館に投じた。

翌20日は 寧に快い秋晴れだつた。私達は川湯行バスに乗ると 美幌峠の杜絶へ飛んだ。紅葉にはちよつと早かつたね、と言うのが 葉倉第の嘆声だつたが、頂上に着いた時 私などは 却つて こういう季節の慎ましい色付きの方が 羨らしく慕わしいものと思えるのだつた。ここからは 和琴半島と中島を持つ 屈斜路湖は一望。峠斜面に 川湯、弟子屈アイスが彫刻館を出していたところから ウ夫人は微笑んで インナクル(幸福)の神様などをお求めになつた。バスが和琴に着くと私達は 博物館を視た。ここでウ夫人の最も喜ばれたのは La Papilio の数多い標本だつたようだ。

次に 観光硫黄山では 夫人の湯煮王子を召し上つてゐる向に 私に一つの 旅程に關する思付が湧いた。それは 同夜予定の川湯泊りを変えて この碧天下 一気に摩周湖から阿基湖へ バスを飛ばそうという案だつた。夫人にお疲れが過ぎては、と氣遣いもしたが 一応お話ししてみると その位の距離なら私だけ大丈夫、行きませう、との形返事。そこで私達は川湯からは、摩周湖展望台回り阿基湖行バスに乗つた。

何人という幸い。この日の摩周湖は、摩周岳から湖心に近い神岩まで 実に山賊の峯張とでも言える ような季節の澄色の内に有つた。夫人はお足に自信がなかつたやうで 二つある展望台の何れへもお登りにはならなかつたが 畧一望の利く高みまでお上りになつて、恍惚と成られた。

ここから阿基湖畔までのバスは、長時間かかるのと かなり揺れるので決して楽なものではなかつた。だが夫人は實に泰然たるもので些かのお疲れも覚えらぬやうだつた。漆黒の湖面の印象!

阿基湖畔に その夜は霧雨を聴きながら眠つたが 明ければ何人と、

実に快い、神の蒼みの空間 !!

私は夫人と朝食後 宿から15分距離のコタンを訪れて戻ったが 夫人はそれとみると さあ是れから汽艇で 湖上をめぐりましょう、実におさわやか。もちろん 私も同意した。

秋は 湖の好い時だ。何人にとっても La lago が、厚みの木として胸にくるのは、この季節に限るのではないだろうか。湖上に出て、私の胸は、実に静かだった。夫人も、実におやさしく呼吸していらした。

雌阿寒湖畔からバスで足寄駅へ出、そこから汽車で帯広駅に下りた私達は 一夜を駅近い名ばかりのホテルで過ごす。翌早朝は汽車で 広尾へ向かった。

私達は襟裳岬を目指して行ったのだが、広尾襟裳向のバスからの展望は正直に言って、夫人をも、私をも、充分喜ばせなかった。何人と言っても、私達の頭には、神祕で新鮮な阿寒が、大きく覆いかぶさっていたから。

岬の尖端では、その真下から浜へ断続して延びている岩礁の美しさが僅かに私達の瞳を引いた。だが、それよりも此処で嬉しかったのは層雲峡からの途上知り合つて 私達の存、荷運びまでお手伝い下さった東京の若御夫婦、荒井氏等にお目にかかれた事だった。私も御好意に報いようと、御観光に向くお訪ね先のニ三へ 紹介名刺 (37頁へ続く)

Ekirinte al Bembaşa について

若い ESP-ISTOJ が好んで歌うスラブ的な哀愁を含んだこの歌はどくして日本に移入されたか -----。名古屋の S-ro 三石清は次のように書いて来た。(昔小技 星田淳)

----Pere de mia amiko, s-ro Isobe Syosaku la kanto eniris en nian landon per letero de tre juna samideano en Jugoslavio. La kanto estas kantata en la filmo "La lasta ponto" de la aktorino Maria Ser. Tiam la popolo kaj volontuloj (= soldatoj) en la liberiga armeo de la lando, kontraŭ la invado de faŝista ~~potenco~~ armeo de Hitler, tre kurage batalis kontraŭ la faŝista potenco. Mia amiko (Isobe Syosaku) spektis la filmon kaj kun emocio pro la humanisma agado de la heroino----kuracistino milita en Germana armeo---- rilate al malsana popolo en malamika lando, li en kinejo, estis kortuŝita de merito kaj boneco de la melodio de la kanto. Li kun sufiĉe bona memoro pri ĝi hastis hejmen kaj tuj enskribis la melodion sur papero por muzikanto. Li sendis la melodion al tre ~~jun~~ juna korespondantino en Jugoslavio kun demandoj "Kia estas la kanto? Bonvole sendu al mi esp-an tradukon---".

Lau klarigo de la amiko, la traduko de la kanto estas iom komencantema, sed ĝi sufiĉe bone estas tradukita. Li, kvazaŭ konfidence, al neniu rakontis la devenon. Nur al mi li rakontis. Mi, antaŭkelkaj jaroj, okaze de la monto-grimpado sur la japanaj alpoj Tubakurodake, kun s-ro Mijake-san kaj aliaj samideanoj, rakontis la devenon dum ekzercado de la kanto ĉe la mont-kabano "Enzan-soo" al gejunuloj-samideanoj. Ili ege interesigis pri la deveno.



LA URSOJ DE HOKKAJDO

 Legendo elpensita por infanoj
 esperantistaj



Angvs Sloan (el Anglujo)

Ĉu vi konas la historion pri la ursatoj nigraj lignaj kiujn oni vendas en la butikoj de Hokkajdo? Ne? Do, mi rakontos ĝin al vi.

roje, antaŭ longe, estis vilaĝeto apud marbordo de Hokkajdo. La loĝantoj fiŝ-kaptis en la akvo de la marokaj la rivero apude. Ili akŝu kreskigis kelkajn rikoltaĵojn kaj kolektis berojn de la kamparo. En somero ili sun-sekigis la fiŝojn kaj fruktojn por mangi en vintro. Okaze ili ĉasis la bestetojn. Sed en la arbaroj estis ursoj, ursoj lertaj --ne facile kaptibla-- . Tamen, la loĝantoj ofte konstruis kaptilojn krudajn kaj okaze kaptis kaj mortigis la bestojn.

Sed en la vilaĝeto estis eta knabo kiu ŝatis la ursojn, kaj li ne havis timon de ili. En la fruaj matenoj aŭ en la vesperoj li iafoje silente foriris el la domo kaj kuris en la arbaron. Se li trovas ursojn en la kaptiloj li donis etan manĝaĵon al la besto kaj liberigis ĝin.

Unutage, pesto granda venis al Hokkajdo, kaj multaj de la loĝantoj mortis. En la vilaĝeto apud la marbordo travivis nur la eta knabo kiu ŝatas la ursojn. Li restis malsana kaj malforta dum la monatoj de la somero... Li ne miris kiam kelkaj ursoj alportis fiŝojn al li por mangi. Ŝajnis esti afero natura.

En la malfrua aŭtuno la ursoj gvidis lin al kaverno seka proksima de varma akvofonto.

Ili anksŭ helpis porti kvanto da nutraĵo en la kaveron. Poste, en la monatoj de la vintro, la ursoj dormis. La eta knabo nestumis en la feloj de la bestoj dum la noktoj malvarmaj.

En printempo, kiam la knabo kaj la ursoj jam iris el la kaverno, maljuna profetisto vagata alⁿ venis en la vilaĝeton. Li miris kiam li aŭskultis la rakonton de la knabo.

"Sed," li diris, "oni ne povus loĝi ĉiam ĉe la ursoj. Vi devas iri al domo de amikoj aŭ parencoj."

Nun, la knabo rememoras ke li havas oklon en tiutempa vilaĝo de Sapporo. "Do," diris la profetisto, "ni iru al Sapporo!"

Ili ekiris je tagiĝo de la tago sekvinta. En la krutvaletio apuda la vilaĝeto ili vidis, sur la alia deklivo, plurajn ursojn. La knabo mansignis al lia amikoj ursaj.

"Sajonara, "li kriis, "adiaŭ...mi umas vin!" Kaj lia -j krioj eĥis ĝirkau la krutvaletan; "Mi umas vin.... umas vin.....vin," Ŝajnis ke la ursoj respondis en iliaj profundaj eĥantaj voĉoj; "Ni umas vin ... umas vin ...vin."

"Umi" signifas en ĉi tiu kunteksto "ami", sed amo altruisa, neprofitema, ankau la unueco de tutaj vivantaj kreitoj. Nur la lingvo internacio Esperanto havas la verbon "umi"!).

Poste ,kiam la knabo loĝis en Sapporo li ofte revis pri lia amikoj la ursoj. Baldaŭ li lernis la arton de lignoskulpto, kaj li naturale skulptis...ursojn.

De tiam ekzistis en Hokkajdo la skulptistoj de ursoj.

Kiam vi vidos la ursetojn lignajn (kun fiŝoj en iliajbuŝoj), vi rivokos la historion de la nekoniata knabo kiu loĝis ĉe la ursoj. Eble vi audus--trans la tempo-- la eĥon "Mi umas vin...umas vin...vin."

(fino)

KION VIDIS LA ALILANDANO EN JAPANUJO

(el legolibro de Kidosaki)

K.Kimura (Sapporo)

- Furoŝiki -

La grandeco de la furoŝiki varias inter tia de naztuko kaj tia de tablotuko. Per ĝi la edzinoj portas aĉetitaĵojn, la profesoro librojn, la studento manĝaĵojn, la vojaĝanto donacojn, la moderna fraŭlino sian european manpoŝeton. La furoŝiki servas kiel aktaĵo, foirkorbo kaj kiel kofreto. Laŭ la speco de la furoŝiki oni povas juĝi la aĝon, sekson, guston, riĉecon aŭ malriĉecon de la posedanto. Laŭ tiu, kiun mi donace ricevis de Meiko Oohaŝi, mi estas fraŭlo, tridek-jara, artista kaj sufiĉe riĉa.

- Oĉa - (teo)

La radio-stacio JOAK staras sur monteto en la bela Siba Parko. Ni alvenis per eleganta automobilo, sendita de la radiostacio. Ĉe la enirejo kelkaj ĝarmaj fraŭlinoj en belegaj kimonoj nin salutis, kliniĝante profunde, kaj tion ripetis, ĝis kiam mi mem ĉesis riverenzi. Kiel kutime, ni unue trinkis teon. Sen oĉa neniu konversacio aŭ radioparolado povus esti komencata aŭ finata en Japanlando. En ĉiu hejmo, en ĉiu oficejo mi devis trinki teon ĉe la alveno kaj antaŭ la foriro. Ĉar mi faris multajn vizitojn, mi trinkis ĉiutage proksimume 25 tasojn da teo sensukero! Nun mi komprenas, kial

pli ol la duono de la Japana teo estas konsumata
en Japanujo mem.

GEEDZIGO EN JAPANUJO
(Klarigo por fremduloj)

(Tomakomse) A. HOSIDA

Post Meizi Renovigo (Burga revolucio en Japanujo, finita en 1868) japana feŭdismo detruigis, sed en multaj kutimoj postvivis ĝiaj formalecaj restaĵoj, Ĝis antaŭ 1945, la fino de la lasta milito, la edzigo ne estis afero pure persona, sed afero inter la du familioj, en kiu oni devas konsideri la rilatojn de sociaj rangoj kaj ekonomiaj kapabloj de la familianoj. Do tiam ordinaraj ĉion aranĝis la du famili-ĉefoj kaj "nakaudo" (peranto--svatisto), kaj konsilis (ofte ordonis) al siaj gejunuloj geedziĝi. Post la milito ĉiu povas libere geedziĝi kiam li aŭ ŝi estas pli ol dukekjara, laŭ Japana Konstitucio.

Ĝenerale japanaj gejunuloj ĝuas la rajton donitan de la konstitucio--libere enamiĝi kaj geedziĝi. (kompreneble troviĝas esceptoj)

Sed la supraĵaj formalaĵoj de la feŭdismaj kutimoj restas ankoraŭ. Klarigo jene.

Miai ; Intervidiĝo , kie la geedziĝantoj renkontas, salutas, ~~kaj~~ parolas kaj observas ĉu si (aŭ li) plaĉas al si.

Nakauda; Svatisto aŭ peranto inter la du familioj
Juinoo; Donacoj inter ambaŭ familianoj, ĉefe de la edzo, por konstati la promeson de la geedziĝo.

Estis kelkaj stiloj de geedziĝa ceremonio.

Ŝintoisma ceremonio; Ĉe ŝintoisma sanktejo.

Budhisma ceremonio ; Ĉe budhisma Templo

Kristanisma ceremonio; Ĉe kristanisma preĝejo, eble same ce eŭropanoj.

Post la ceremonio ordinare oni havas festenon, kie la gekonatoj gratulas la novan paron. Tion oni nomas "hiroo-en" (publikiga festeno).

Lastatempe gejunuloj emas forĵeti formalajn kaj simpligi la procedon de geedziĝo. Jam multaj ne havas "miai", ankaŭ "juinoo"-on.

Kelkaj geedziĝas eĝ sen "nakaudo". Tiel nun troviĝas diversaj manieroj en geedziĝo.

Ofte en civitana domo aŭ aliaj publikaj kunvenoj oni havas ceremonion kaj festenon samtempe. Tiam la ceremonio estas tre simpla . Tiam prezidanto prezentas la novan paron , kiuj kune legas ĵuron por geedziĝo. Tion tuj sekvas Hirooen (festeno).

En Hiroo-en oni manĝas ,trinkas sakeon,
salutas gratule,kantas ĝaje k.t.n..

Post tio la nova paro forveturas por Siakoa-
rjokoo(Geedziga vojago) ordinare. Tiel ,ordinare
en hotelo de varmfontejo ili havas ŝancon esti
nur si. Tiel ili komencas siam vivon kiel geedzoj

TAJDO

T.Takahasi (Otaru)

Mia 3-a infaneto naskigis la 22-an de Okt.,
en la lasta jaro , kaj en tiu momento ĝi estis
al-vokita de mia edzino (kompreneble ĝia patrino)
"Tajdo!" ĉar ĝi estas vira .

Antaŭ 8 jaroj ,kiam mia 2-a infaneto estis
naskigonta , mi preparis por ĝi la nomon "Tajdo"
esperante ke ĝi estu mia filo (ĉar mia 1-a infan-
eto estis filino kaj mi donis al ŝi esperantan
nomon "Lumi"); sed la 2-a ankaŭ estis ina same
kiel la 1-a ,do mi donis al ŝi esperantan nomon
"Ami"

La 2 filinoj kreskiĝas bone ,--iam kune
ludas,iam kvarelas kontraŭ la alia,--iam ploras
,iam ridas---tiel mi estis feliĉa kaj kontenta
kun miaj filinoj,ĉarmaj al mi ,kaj ĝajaj ĉirkau
mi---mi jam preskau perdis deziron havi filon
kaj tial mi estis preskau forgesanta la nomon
"Tajdo"---Sciigo sekreta de mia edzino surprizig-
is min.

Kiam mi akompanis mian edzinon al la
akusejon mi ne povis esti trankvila preĝante

"

facilan akuŝon, kiel multaj patriĝantaj viroj. "Filo
aŭ filino" ne estis grava tiam por mi, sed post kelkaj
~~xxx~~ horoj, kiam la flegistino informis al mi facilan
akuŝon kaj naskiĝon de FILO, mi ne povis kasi goĝegon
preskaŭ eksplodantan en mia koro, kaj tiam remorigis
al mi la nomo "Tajdo" !.

Kiam mia edzino revenis de akuŝejo, ŝi ankaŭ diris
al mi, "Feliĉe Tajdo naskiĝis." Tiam "Tajdo" estis
jam decidita nomo por la nova infaneto, kaj post 5
tagoj mi registris la nomon en la urba oficejo.

Ĉu vi demandas al mi kial mi donis al li la nomon
"Tajdo"? La kialo estas tre simpla, ĉar mia laboro
koncernas maron, (--tajdon), kaj li devas havi esperantan
nomon. Pro tio "Tajdo" estas la plej taŭga por mia
filo el la esperanta vortaro.

Maristoj diras "Homo naskiĝas en la horo de alflua
tajdo, kaj mortas en deflua tajdo." Vere, la vigla
infaneto naskiĝis kun alflua tajdo.

Iu diris al mi ke ĉi tiu nomo estastro grandizema por
tiel malgranda infaneto, kaj alia kritikas ke ĝi
imagigas nomon de iu bonzo; mi konsentas al tiuj,
laŭ la signifo de ĉina litero por signi la nomon
"太道" (Tajdo). Sed kelkaj komplimente laŭdis la
nomon pro ĝia grandiozemo. Mia bopatro konsenteme
diris ke ĝi imagigas sekurecon kontraŭ trafikaj
akcidentoj.

Japanoj povas havi nomon tre libere kompare kun
eŭropanoj kiaj devas havi kristanan nomon kaj uzo
de ĉinaj literoj riĉigis, diversigis kaj pli-liberigis
is japanajn nomojn.

Por legi ĉinajn literojn, estas 2 rimodoj---
"KUN" (propra leg-rimodo laŭ signifo de japana
lingvo) kaj "ON" (legrimodo laŭ prononco de ĉina liter
-o) Mi montris kekaj ekzemplojn por KUN-legrimodo
kiel ĉi sube:--

Yasuko (nomo de mia edzino)
signifas "virino plikaj pli feliĉa,
aŭ "virino tute sekura"

Hayato (nomo de eks-ĉef-ministro)
Signifas "bravulo"-n

Akira

Signifas "klara" au "luma"

Mia amiko, s-ro Tutida, havas nomon "Tora-juki".
Laŭ ĉina litero, "Tora(虎)" signifas "tigro (bravulo
kiel tigro)"-n, kaj "juki(吉)" signifas "feliĉon".
Do, mi iam moke ŝercis al li ke li estas tre
feliĉa kiam li estus ebria. (Japano diras "Tora!
por montri ebriad viron...") Kompreneble ~~xx~~ lia
nomo signifas "viro brava kiel tigro kaj tre feliĉa!"

Mi montros kelkajn ekzemplojn por ON-legrimedo
de nomoj kiel ĉi sube; -

Tacuĵi (mia nomo)

Signifas "atingebla kaj paca"

Eisaku (nomo de nuna ĉef-ministro)

Signifas "prospera rikolto"

"Tajdo" ankaŭ devenas de ON-legrimedo en japana
lingvo. "Taj"(大) signifas "tregranda" aŭ "la unua"
, kaj "Do"(道) signifas "vojo"-n. Mi pensas ke la
signifo estas taŭga por li ĉar li estas ~~xx~~ mia
"unua" filo kaj li naskiĝis en Hokkaj"do".

nomo de

En japana lingvo mia 1-a filino "Lumi" (lumi)
signifas "bela kiel lazur-gem" . Kaj nomo de 2-a
filino "Ami" (ami) signifas "ĉarme bela" . Mi
esperas ke ili estu belaj virinoj.

Iu demandis al mi kial mi donas esp-an nomon
al miaj gefiloj, sed la kialo ankaŭ estas tre simpla
, ĉar mi kaj mia edzino geedzigiĝis kiel geesperantistoj
, do miaj gefiloj naskiĝis pere de Esperanto kaj
ili vole nevole estas destinataj koncerne al
Esperanto. Ili havas rajton havi esperantan nomon.

Mi deziras partoprenigi 2 filinojn al la infana
kongreso en 50-a Universala Kongreso . Por tio
miaj filinoj lernas nun esperanton . Mi deziras
ke ĉiuj miaj infanoj farigos bonaj geesperantistoj

Nun Tajdo , kiu multe suĉas lakton kaj dormas

bone, nun tre sane kreskiĝas kun ronda infanema vizajo. Mi ne povas antaŭdiri ke li estos bona esperantisto aŭ ne, sed mi, rigardante laŭm vizajon, pensas ke li iam pripensos pri sia nomo, koncerne Esperanton.

SCIENCA PENSADO Povas konduki al
OBJEKTIVA VIVKONCEPTO, se ĝi
TRAKTAS NOVAJN IDEOJN? Petu sennagan ilustran
fald-prospekton ĉe Martinus Instituto, Mariendal-
stvej 94-96, Kopenhago E., Danlando.

PRI INSTRUADO DE ESPERANTO AL INFANOJ

Ida Lisicnik, Kutaisi (USSR)

Ĉiu instruisto de fremdaj lingvoj sendube konstatis, ke infanoj pli rapide kaj facile lernas fremdan lingvon ol plenaĝuloj. Tio estas natura, ĉar la kapablo de infanoj al imitado kaj ilia pli freŝa memoro helpas al ili majstri la fonetikon, memori la vortaron.

Alia afero estas kun lernado de Esperanto. Multaj esperantistoj montras, ke por infanoj, se instrui al ili la lingvon per gramatika metodo, la posedado de la lingvo estas pli malfacila ol al plenaĝuloj. Tio estas afero tute komprenebla. Esperanto estas lingvo de logiko, de senĝesa konstruado de vortoj pere de afiksoj---proceso sendube malfacila por infanoj.

Jen kial la metodo de instruado de Esperanto al infanoj ne povas ne konsideri tiujn specif-
-aĵojn.

LA ĈEFAJ PRINCIPOJ DE TIU METODIKO ESTAS NIAOPINIE JENAJ;

1. Rekta metodo, konversacio kiel bazo de pedagoga proceso.
2. Infanoj lernas ne vortojn kaj ilian konstruadon pere de afiksoj, sed pretajn frazojn.. Nur post kiam la lernatoj,

plene ekposedos tiujn pretajn

frazojn kaj parolturnojn, estas ebla ilia gramatika analizo kaj klarigo de afiksoj.

3. Paralele kun la konversacio, infanoj lernas rakonti malgrandajn interesajn anekdotojn, historiojn kaj versajojn, kantojn.

Jen estas mia metodiko de instruado al infanoj, kiu donas sufiĉe bonajn rezultojn. Mi ne uzas lernolibron, sed verkis dialogojn je ĉiutagaj tempoj, ekzemple:

1. PRI MI

Kiu vi estas? Kia estas via nomo? Kiomda jaroj vi havas? En kiu klaso vi lernas? Ĉu vi estas bona lernanto? Kie vi loĝas? Kie estas via lernejo?

Por ke la lernantoj novu enskribi la dialogojn kaj ripeti ilin, post la konversacio ili estas instruataj legi kaj skribi.

2. MIA FAMILIO

Ĉu via familio estas granda aŭ malgranda? El kiu konsistas via familio?---Patro, patrino (gepatroj), frato, fratino (gefratoj).---Ĉu vi havas geavojn?---Avon kaj avinon---Ĉu vi havas geonklojn? Onklon kaj onklinon.---Ĉu vi havas gekuzojn?---Kia estas via patro?---Laboristo, oficisto, muzikisto.---Kio estas via patrino?---Laboristino, instruistino, dommastrino.---Ĉu viaj gefratoj estas lernantoj? Ĉu ili estas laboristoj, oficistoj?

Post kiam tiu dialogo estas jam bone ellernita kaj la infanoj memoras ĉiujn vortojn, mi demandas ilin:

Ĉu vi rimarkis ion interesan en tiaj vortoj, kiaj patro-patrino, frato-fratino, avo-avino.---Kion? La infanoj mem konkludas, ke finiĝas je -o kaj -oj en pluralo; ke virina sekso finiĝas je -in-. La samon ili mem konkludas pri la prefikso ge-. Sekvas ekzemploj kaj ekzercoj.

(daurigota)

(24頁から)を書いて差し上げていたのであるが、氏等が私達同様のコースを辿って、ここに采ておられるとは思わなかったのだ。「今度は何処でお目にかかれましょう。」—そんな事を言つて笑い合つたが、私の胸には何か寂びしいものが残つた。

この御夫婦を様似へ見送つた後、私達は尚そこで 昔小牧の同志のどなた様かがいらつしやらないか、と一バスをお待ちした。でも其れは、はかない希いだつた。私達もその後、様似行のバスに乗つて、難破船員の古川墓のあ芒原を、揺られに揺られて 日高路の人と成つた。

様似から汽車で富川に着いたのは、その日の夕暮だつた。駅のお方から後程 S-ro 星田が私へお電話を下さるとは伺つたけれども、ウ夫人が Tre malsata と仰有るので、そこに留まる訳にも行かない。明日電話連絡しますと、S-ro へお伝え願つて置いて、私達はバスで、平取町へ向かつた。

そのアイヌ老媪、吉田花子氏は私の旧知で、土地のアイヌ族の間に信望の厚いお方であるが、その夜は私達の爲に 快くその新宅の和室=間を供された。

夫人は私を介して、吉田媪の、故 S-ro D-ro John Batchelor に関する追憶を聴こうとされたり 男女お二人のお孫さんへ、お優しいお言葉をかけられた。

翌朝は先ず、S-ro 星田へ電話連絡せねばならぬと思つたが、近隣から何度かけても通じないので、それは思い切つて 吉田媪から報された、私の知人のアイヌのお葬式へ、それから出かけた。正午ごろ戻つて来ると是れはハテ、盛んな歌ごえ。吉田媪の孫嬢 あやん、ウ夫人が、邦語の童謡を Kunkanti してるのだつた。

やがて吉田媪も、私の行つたお葬式からお戻りになつて、そこで皆んな揃つての、お別れの tagmanqo。私達は 昔小牧へ出るのだ。

近くのバス停留所まで、嬉はお孫さん達や、集合せし私見知りのアイヌの小母さんと、見送りに出て下さる。

ウースター夫人の 彼女等への、お名残り惜しそうな笑み!

'Sarampa (Adiau), Piratori'; 哀しい声が、私の咽喉から、発された気がする。(完)

①. ウースター夫人 再び北海道へ

ウースター夫人が 再び(四回目)北海道においてになります。各地行事にご参加下さい。

4月11日(日) 15時15分「おおとり」札幌着

16時-20時 南1西7興和ビル2階(電

車通り南向)で行われる札エス会総

会に出席。なお「札エス会総会」

と同時にウースター夫人歓迎会

世界理解の日(Mondvida Taqo)も行

20時以降 通産円山荘 着泊

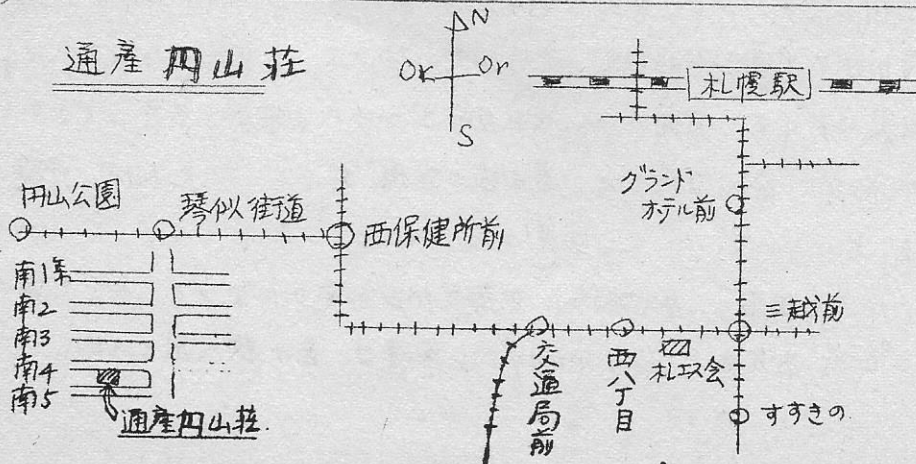
(終始 ^{エスミ} 重柵 Oomoto 編集長 随行)

4月12日(月) 札幌 大本anoj と。札幌着泊

4月13日(火) 小樽 エス会、大本anoj とkunsidi

4月14日(水) 19時「おおぞら」で札幌発。高道

通産円山荘



La 3-a Disciplinado de Esperantis Loj en Hokkajdo en 1965

とき 1965年4月24日(土) 17時 ~ 21時30分(受付開始
16時30分)
1965年4月25日(日) 9時 ~ 15時

ところ サッポロ市南5西25通彦内山荘 (Tel 22-3400)
(すべて和室 落ち着いた雰囲気のきれいなところですよ)

経路 サッポロ駅前から すすきの方面行電車(2,3,7系統)に乗り、「三越前」で「円山公園」行き(1系統)にのりかえ「琴似街道」で下車。南へ徒歩で約10分。

費用 下記のうち各自の所要至費のみ。申込書に明記して下さい。

- イ. 24日宿泊(25日の朝食付) 500円
- ロ. 24日会費(18時半頃食事) 250円
- ハ. 25日昼食(共もの) 120円
- ニ. 記念写真(25日12時撮影予定) 60円

申込書送付先。サッポロ市南1西6三谷ビル4階
吉原法律事務所内 札幌エス会

申込 期限 4月17日午前中までに必着。

合宿では UEA発行のDiskoj をテープにとったもの(49-a U.K. での Lapennaの話もある)や Pompilio 氏の講演ロクオン、Liquaphone の Esp-kurse をテープにとったものなどをつけて耳ならしをはかれます。しかし、一人10分位の prelego をやって自ら人前で話す練習をされるよう期待します。)

HEI 会計報告 1965 ~ 2月 ~ 3月

前回繰越残	20,200
山賀 勇より	1,000
連分 志より	400

植木口筋	300
後援会 (50 UK 共)	10,000
1-a disciplinado 支出	1,000
2-a disciplinado (小樽) 支出	2,000
pompilio (札幌) 支出	5,000
Intormilo (65-2a)	800
" 送料	320

3月31日現在残額

23,180

50 UK 寄附者 (1965 Feb~Mar)

札幌	川口 義彦	400
苫小牧	大泉 源郎	1000
	門脇 松次郎	1000
	かんしん亭 喜林	500
	相沢 一雄	1000
	吉住 秀雄	500
	下岡 善次郎	200
	本田 衡規	200
	中里 和夫	5000
	梅木 孝昭	500
	星田 淳子	3000
由仁	新倉 篤男	3000

尚これで後援会資金は残 9,870円となりました。

後記

定期飛行どころか 予定日からまた更に遅れ まことにすみません。50 UK も近く、あれこれ忙しい日々ですが とにかく近頃になく 40-paga ができてよろこんでいます。50 UK 参加予定者から 同じ宿で、とか 同じ汽車で、とか 希望がきています。宿はさまでまでも 汽車は 皆一緒に団体列車で 楽しく、安上りに旅行する事にしたら、どうでしょう！

APR. 1965

(0-30)

Kiam la sekretariato de Unuigintaj Nacioj turnis sin al
neregistaraj organizaĵoj en konsultaj rilatoj kun Unuigintaj
Nacioj kaj kun ~~la~~ Unesko, [inter aliaj ankaŭ ~~Unesko/la~~ U.E.A.]
por ~~la~~ partopreni ~~en~~^{en} tiu ĉi agado, kompreneble ~~la~~ ~~Unesko~~ Universala
Esperanto Asocio akceptis la kunlaboron; ĉar ni esperantistoj
opinias, kaj ~~ni~~ⁿⁱ esperas ~~ke~~^{ke mi} ~~esprimas~~ la opinion de vi ĉiuj
ĉi tie ~~ke~~ kiam mi tion diras, ni esperantistoj opinias, ke
necesas doni subtenon al ĉiuj honestaj lojalaj klopodoj de
Unuigintaj Nacioj, kiuj celas antaŭenigi internacian komprenigon
kaj sekve ankaŭ mondan pacon, ĉar ni esperantistoj ja estas por
la monda paco, kaj ni estas ne nur hodiaŭ, sed ankaŭ hieraŭ
kiam ~~ni~~^{estis} estis fortaj internaciaj tensioj, kaj ni estis ne
nur ~~ke~~ hieraŭ, sed ankaŭ antaŭhieraŭ, eĉ de la momento, kiam
~~ke~~ tiu genia junulo el Bialistok ekhavis la ~~ideon~~ ideon doni al la
homaro komunan lingvon; ĉar tra ĉiuj niaj reeligoj
ĝis la hodiaŭa tago la ~~ideo~~ ideo de komuna supernacia neŭtrala
lingvo estis ligita ~~la~~ al la penso pri interkomprenigo
ne nur buŝa, sed ankaŭ kora, al la ideo de toleremo kaj
komprenema rilatado al alies pensoj, ideoj, ~~ide~~ ideologioj
kaj religiaj sentoj, al interkomprenigo inter la rasoj kaj
nacioj, sekve al la monda ~~la~~ paco, (~~la~~ Aplaudado)

Tio estas la vortoj de Doktoro Zamenhof. Tiuj profetaj pensoj de Zamenhof regu la laboron de tiu ĉi kongreso. Ili estu antaŭniaj okuloj kiam ni ekagos kaj laboros en la Jaro de Internacia Kunlaborado. Ili estu la bazo de nia agado en la estonteco. Se ni observos tiun saĝan kaj prudentan konsilon, ni certe venkos. Se ni malobservos ĝin, ni riskas ne nur detrui ĉion, kion miloj da ~~niĝaj/plej~~ sindonaj ~~personoj~~ ^{personoj} kreis ~~de~~ ^{dum} pli ol ~~75-jara~~ ^{70-jara} ekzistado de Esperanto,

sed ankaŭ kompromiti ^{pro} ĉiam la ideon de internacia lingvo, ĉar se ni kompromitas ^{ĉi} hodiaŭ la ideon de la internacia lingvo neniu plu troviĝos, kiu restarigis ^{la} ~~ĝian~~ ^{reputacion}. (Aplaŭdado)

Ni estas sufiĉe fortaj, geamikoj, por iri antaŭen. Ni nur bezonas saĝon kaj prudenton por esti unuecaj. Kun tiu saĝo kaj prudento ni alfrontu la laborojn de tiu ĉi kongreso, ni ^{alfrontu} ~~alprotu~~ la Jaron de Internacia Kunlaborado, por ke la Jaro de Internacia Kunlaborado fariĝu samtempe ankaŭ la Jaro de la Internacia Lingvo Esperanto, en la intereso de internacia kunlaborado, en la intereso de amikaj rilatoj ~~de~~ inter la popoloj, rasoj kaj nacioj, en la intereso de amika kunlaborado ~~de~~ ĉiuj ^{inter} unuopaj homoj, en la intereso de ni ĉiuj.

(Aplaŭdado)

— FINO —

(158—220—^{fino})

Tiamaniere, al kiu ajn aspekto vi ~~rigardas~~ rigardas, vi vidas objektivan progreson malgraŭ ~~multaj~~ malfacilaĵoj eksteraj kaj ^{la grandaj} malgraŭ multaj obstakloj internaj, kiujn ni frontis kaj plue frontas en nia laboro. ~~Ni~~ ^{Mi do} opinias, ke ni estas kapablaj plenumi la grandan taskon kiu staras antaŭ ni en la jaro de internacia kunlaborado sub ~~ĉi~~ unu kondiĉo, ke ni estu unuecaj, unuecaj ne nur organize, sed ankaŭ en niaj koroj kaj spirite. Kaj tiurilate ni opinias ke ni povas fari nenion pli bonan en tiu ĉi momento ol memorigi vin pri la vortoj, kiuj ^{el}diris Doktoro Zamenhof kiam --lasta pro kelkaj eventoj en la tiama esperanto-movado, li ~~decida~~ decidigis ^{el}retiriĝi ^{pri} ĉiu oficiala funkcio el la esperanto-movado kaj en sia fama parolado de la jaro 1912, anoncis sian eksigon. Li diris:

"Antaŭ ol mi formetas de mi ĉian oficialan rolon en nia afero, mi ankoraŭ la lastan fojon admonas vin: laboru ĉiam en plena unueco, en ordo kaj konkordo. Per ~~ĉi~~ unueco ni pli aŭ malpli frue certe venkos, eĉ se la tuta mondo batalus kontraŭ ni; per interna malpaco ni ruinigus nian aferon pli rapide, ol tion povus fari ĉiuj niaj malamikoj kune. Se en nia afero aperos io, kio ŝajnas al ni malbona, ni povas trankvile ĝin forigi per komune konsentita decido; sed ni neniam semu en nia tendaro reciprokan malamon kaj malpacon, kiu nur ĝojigas kaj triumfigas ~~ni~~ niajn malamikojn. En la unuaj jaroj de nia laborado sur nia standardo estis skribitaj la vortoj "espero, obstino (kaj) pacienco": tio tute sufiĉis, ĉar ke ni, samideanoj, devas reciproke nin estimi kaj helpi, tio por ĉiu estis kompreneble per si mem. En la lastaj jaroj ni bedaŭrinde ofte forgesis tiun devon; tial nun, transirante en la duan gravan periodon de nia historio, en la duan kvaronjarcenton, ni skribu sur nia standardo novan vorton, kaj ĉi tiun vorton ni ĉiam respektu kiel ~~ĉi~~ sanktan ordonon; tiu vorto estas "konkordo".

(75-94)

Necesos kolekti multajn subskribojn je tiu propono. Necesos mobilizi ĉiujn niajn organizaĵojn kaj ĉiujn unuopulojn, ĉar kvankam dum tiu ĉi jaro de internacia kunlaborado ni faros nian eblon por ĉerpi al la klopodoj de Unuigintaj Nacioj sur tiu kampo, tamen ni ne forgesas, ke ne estas pli intensa kaj pli vasta internacia kunlaborado, sen akcepto de komuna instrumento de kunlaborado, per kiu povas interkompreniĝi ne nur la intelektaj elitoj, kiuj havis tempon ^{por} ~~lerni~~ multajn fremdajn lingvojn kaj ĉi tiuj lerno ne sufiĉas al ili por interkompreniĝi ĉiam, sed ke necesas kunlaborado de vastaj popoltavoloj, kiuj havas nek tempon nek energion ~~por~~ en ^{la} ~~tiu~~ moderna tempo por lerni amason da lingvoj, sed necesas havi unusolan ~~interkompreniĝan~~ ^{komunan} lingvon por internacia kompreniĝo, kaj tio estas nia KOMUNAN internacia lingvo Esperanto, internacia laŭ sia konsisto, ~~laŭ~~ laŭ siaj celoj, laŭ sia strukturo kaj laŭ ĉio. (Aplaudado)